

授業科目名	演劇ワークショップ実習 A	担当教員	山内 健司 山谷 典子
必修の区分	選択		
単位数	2単位		
授業の方法	実習		
開講年次	1年 第2クォーター		
講義内容	<p>これまでに履修したコミュニケーション演習などで培われた、演劇のものの見方を通じたコミュニケーションの考察を土台に、本格的な演劇創作に触れる第一歩の時間とする。</p> <p>自発的に相手役とコミュニケーションをとりながら、自分たちの力で小作品をつくる実践を通じて、創作のプロセスを体験する。</p> <p>今後、実際に創作に臨むにあたっての土台作りを目指す。</p>		
到達目標	<p>1. 創作を通じて、他者と関わる力と専門的な見識を養う。</p> <p>2. フィクション創作を通じて、他者を自身の身体で実現する術を養う。</p>		
授業計画	<p>この授業は短期間で集中して行い、ゲストスピーカー等を招き、多様なアーティストの世界観やメソッドに触れる。</p> <p>1 「私と他者」を考え、さまざまなアクティビティを通して小作品を創作する。</p> <p>2 「私と社会」を考え、さまざまなアクティビティを通して小作品を創作する。</p> <p>3 「チームビルディング」に焦点をあて、さまざまなアクティビティを通して小作品を創作する。</p> <p>4 「他者の魅力」に焦点をあて、さまざまなアクティビティを通して小作品を創作する。</p> <p>5 「話し言葉の魅力」を考え、さまざまなアクティビティを通して小作品を創作する。</p> <p>6 「出来事を起こす仕組み」を考え、さまざまなアクティビティを通して小作品を創作する。</p>		
事前・事後学習	<p>・創作における個人的な準備（リサーチ、課題設定など）を十分に行なって授業に臨むこと。</p>		
テキスト	授業内で指示する。		
参考文献	授業内で指示する。		
成績評価の基準	<p>・授業内での取り組み・発言（50%）</p> <p>・発表における取り組み・発言（50%）</p>		

履修上の注意 履修要件	
実践的教育	芸術文化分野の実務経験を持つ教員が、その実務経験を生かして教授することから、実践的教育に該当する。
備考欄	定員超過の場合は、抽選などで選考する場合があります。